

令和6年度 北見カトリック学園 北見マリア幼稚園 学校評価

1.教育目標

- ・神様の愛を信じ、のびのび育つ子。
- ・自分の事は自分でできる独立心のある子。
- ・友だちと仲良くし、楽しく遊べる子。
- ・手足を十分に使い活発に遊ぶたくましい子。
- ・自分の考えを伝え、人の話をよく聞く子。
- ・感謝と祈りがいつでもどこでもできる子。

2.教育目標達成に向けての令和6年度の重点

- ・神様から賜った個性に感謝し、お互いを認め合う心を育む。
- ・神様や親からの大きな愛を感じ、命を大切に育てる。
- ・友達、教師、家族との関わりを楽しみ、信頼を寄せ豊かな人間関係を築こうとする子を育てる。
- ・「一人でできた!」という達成感と充実感を積み重ね、自己肯定感を育てる。

評価項目	結果	理由
教育内容・環境の充実と計画性	3.8	今年度は、北私幼道東ブロック研究大会で公開保育を実施し、保育の見直しを行う良い機会となった。主体性を育む保育環境を整える為に教職員が話し合いを重ね、園児一人ひとりの個性や能力を把握し、成長へと導く為に計画性をもって取り組んでいた。
保育の充実と園児との関わり	3.8	全職員が共通理解を行い、全園児一人ひとりと関わる意識が浸透しており、保育の充実と共に基本的生活習慣が身についた。挨拶は年長児が中心となり、相手への配慮や感謝の言葉も聞かれるなど年下へ良い手本となっている。体力づくりを園の特色として保育を行ってきたが、全園児対象体力測定の成果が見られている。
安全管理	3.6	月1回の園児と職員の実践訓練や学習により、一斉訓練(火災・地震)では指示に集中し行動することができていた。次年度は、訓練用動画を活用する。 今年度は、誤飲事故があったことは大きな反省であり、職員へ危機管理マニュアル周知を徹底すること、事故未然防止に向け職員の意識改革に努める。
地域の幼児教育機関としての役割	3.7	未就園児教室、子育て相談を充実させ、核家族、特別支援児を育てる保護者のネットワークの役割を担えるようさらに発信ツールを考えていきたい。 今年度は地域の老人施設や商店の訪問、公共交通機関や施設利用の機会が多くあり、貴重な体験となった。今後も地域の方と自然に挨拶を交わせる関係を築き、園の活動内容を広める。
教員の資質・能力向上	3.7	准職員、補助職員の資質向上はなかなか研修時間確保が難しく課題だが、ケース会議により支援の手立てをより具体化できている。 主体的保育を学ぶ研修に参加する職員が多かった。園児が主体的に取り組めるような環境を整え教師の援助のあり方を学び、3学期の行事では成果が感じられたことは非常に良かった。
保護者との連携	3.8	連絡ツールアプリ「コドモン」での連絡が浸透し、職員も扱いに慣れたことで保護者とのスムーズな連携が取れるようになった。今後はさらに日常の写真を送ることやドキュメンテーションを利用することにより園での様子が分かり、一人ひとりの成長に合わせた導きができるように保護者と連携を取りながら安心と信頼につなげたい。

※結果の表示方法 4 十分達成されている 3 やや達成されている 2 あまり達成されていない 1 取り組まれていない

4. 令和6年度の総評

結果	理由
3.7	・子育て支援センターきらり通所児は、保護者の希望に沿った支援、導きが出来ているとの評価をいただいた。 ・支援園児の保護者との対応連携は充実傾向、他の保護者からの特別支援統合保育への理解も徐々に広がっている。 ・保育のマンネリ化が課題だったが、主体的保育活動を目指すことで職員の意識が変わり、園児の活動意欲も見られたことで成果があった。 ・安全管理意識を徹底し、危機管理マニュアルを全職員周知すること、事故未然防止に向け意識改革に努める。 ・体力測定は2年目となり、各家庭で測定結果に興味を持っていただいた。今後バランスの良い体力づくりに力を入れて行きたい。
・これまで、保育の傾向は一斉指導だったが、今年度は主体的保育活動を取り入れ、園児が積極的に意見を出す、話し合い、決めることで 夢中になって行動する姿が見られたことは、職員にとっても大きな成果となった。特に、3学期の行事「マリアマーケット」買い物ごっこでは、自主的積極的に取り組む様子は保護者からも反応があった。次年度も意欲的に行動する姿や子どもの成長に期待が持てることが保護者に伝わる園を目指す。 ・障がい児保育の理解を広め、他面的な子育て支援ができる園として計画をする。 ・特別支援児の家庭との信頼関係を築き、自己肯定感を持てるよう支援、具体的な手立てを提案する。 ・職員の資質を向上させ責任と喜びを持って教育・保育に従事し、お互いを認め合い高め合える職員関係をつくる。 ・園の特色である絵画活動、体育活動、特別支援等の研修時間の確保をする。 ・職員が社会事情に関心を持つことや異業種交流など、教育・保育に活かせる機会を積極的に得る環境を整える。 ・クラス、年齢別、1号児、2号児全ての園児に全職員が関わりを持つという意識を持つ。	